

【温泉街別府】（二）「鬼滅の刃」と別府

昨年10月に公開されたアニメ映画「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」の興行収入がとうとう400億円の大台を突破し、また大きな話題となっている。日本国内だけでなく海外でも上映されている同映画の人気は、まだ衰えず今後も興行収入が増加することは目に見えている。何しろ、日本公開からわずか10日間で100億円の興行収入を達成したのだから。10日間での100億円突破は史上最速だそうで、アニメ映画での歴代興行収入1位の「千と千尋の神隠し」や同2位の「君の名は。」とも、100億円突破までに3週間以上要したというのだから、コロナ禍での記録達成には驚く。



八幡竈門神社本堂

その「鬼滅の刃」が、大分県別府市も深く関わっている。およそ温泉の街として知られている以外は、それほど注目されることはないのだが、いろいろ調べてみると、「八幡竈門神社」という神社がファンの中で聖地化されていることを知った。地元では「竈門神社」と呼ばれているこの神社は、別府市の玄関口 JR日豊線の別府駅から路線バスに乗って40分ほどの場所にある。「竈門入り口」というバス停で降り、5分ほど歩くと参道に辿り着くが、見るとそこは九十九段もある急な石段。歩いて上るにはかなりキツイ斜度だが、自家用車で来れば神社脇の駐車場まで難なく辿りつける。山門をくぐって本堂に入ると、土日祝日には家族連れで結構賑わいを見せている。見れば鬼滅のファンであることは

一目同然で、確かに聖地巡礼の神社になっていることを実感する。



鬼が造ったと伝わる 99 段の石段

では、なぜ「八幡竈門神社」が鬼滅の聖地になっているのか。それは主人公の名前が「竈門炭治郎」で、苗字の「竈門」がこの神社名と同じであることからファンの聖地となったという。名前だけでなく、竈門神社境内にはアニメの世界観と重なるスポットが点在していることも、一層アニメの聖地として話題を集めているようだ。例えば「鬼が造った九十九段の石段」や「鬼が忘れた石草履」など、神社には鬼にまつわる伝説が数多くあり、それが「鬼滅の刃」とシンクロすることで聖地化した。伝説を知るには、現地を訪れて見れば分かる。

境内にあるスポットにそれぞれの説明が記された標識があるからだ。



鬼が忘れた片方の石草履と伝わる足跡。指が3本なのは、貪欲・嫉妬・愚痴を表しているとか

にわかには注目を集めだした竈門神社だが、以前は週末や祝日でも参拝者が20人程度だったのが、今では2000人以上も訪れているという。別府市内の大学に留学している中国人学生の間でもまだまだ人気の話題で、アニメの影響恐るべし。おかげで、別府にまた一つ観光スポットが誕生した。



境内には聖地巡礼の幟も立てられている

文 鈴木源柱